

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	<u>11</u>
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		<u>30</u>

訪問調査日	平成20年 11月 7日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 14時 45分

訪問先事業所名 (都道府県)	指定認知症対応型共同生活介護 しびの里事業所 (鹿児島県)
-------------------	------------------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>中村 朋美</u>
	氏名 <u>浜田 千里</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>福満 隆正</u> ヒアリングを行った職員数 3 名

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月12日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4674000106号		
法人名	有限会社居宅介護支援センター		
事業所名	指定認知症対応型共同生活介護 しびの里事業所		
所在地	鹿児島県薩摩郡さつま町紫尾2140-1 (電話) 0996-59-8805		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年11月7日	評価確定日	平成20年12月23日

【情報提供票より】 (平成20年10月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	2人, 非常勤 8人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り
	2階建ての 1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000～25,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要 (10月 17日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3			要介護4	2名	
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 83.8歳	最低	73歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木原医院・たきかわ歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間部にある温泉地に位置し、旅館跡を改装して、昔ながらの畳のある生活を大切にしているホームである。1階にある舞台つきの大広間にはベットやコタツなどが置かれており、日中は全入居者が思い思いに過ごすようになっている。また離れの温泉は、入居者が自由に入浴でき、楽しみごとの一つとなっている。職員は、入居者一人ひとりの思いなどが違うことを理解し、個々に応じた言葉かけや対応に心がけている。利用者に喜ばれることを自分の喜びとしながら、一人ひとりが家族の一員として共に支えあって生活している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての理念の見直しや災害時の地域住民への協力依頼など改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者が中心となり、運営者、職員の意見を聞き集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	幅広い立場の参加メンバーであり、ホームや入居者の現況、地域密着型サービスについてなど課題点を話し合っている。多方面からの意見がでており、そこでの意見をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時や電話など、家族が意見を言いやすいよう配慮している。出された意見は状況把握をしっかりと行い、職員で検討して意見を反映させるよう努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の代表者等と相談連携を図って、情報収集に努め、お花見や夏祭り等の地域行事に参加している。保育園児との交流やボランティア・お手伝い・踊りなどの訪問がある。地域住民から介護などの相談を受けることもある。災害時の協力の依頼をするなど日々地域と交流することを大切にしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	誇りや自尊心を大切に、入居者が必要とされる実感を持ちながら、今までの生活を地域の中でその人らしく継続することを目指した事業所独自の理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の掲示により、職員は日々理念を確認しながら支援している。管理者は日々の支援のなかで機会あるごと、職員に理念をもとにした話をしている。日々環境づくりに努め、理念の実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の代表者等と相談連携を図り、情報収集して、お花見や夏祭り等の地域行事に参加している。保育園児との交流やボランティア・お手伝い・踊りなどの訪問がある。地域住民から介護などの相談を受けることもある。日々地域と交流することを大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者が中心となり、運営者、職員の意見を聞き集約している。評価を活かし、職員と検討しながらサービスの質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	幅広い立場の参加メンバーであり、ホームや入居者の現況、地域密着型サービスについてなど課題点を話し合っている。多方面からの意見がでており、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、運営推進会議以外にも何でも相談し、常に連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々の状況に応じて、定期的に近況や金銭管理など報告している。家族の訪問時や電話連絡などで近況や健康状態などの随時の報告もしている。職員の異動は、家族の訪問時に報告し、全職員の名前入りの写真の掲示をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や電話など、家族が意見を言いやすいよう配慮している。出された意見は状況把握をしっかり行い職員で検討し意見を反映させるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を大切にして離職を必要最小限に抑えるよう努めている。職員が代わる場合は、職員配置を工夫して職員同士の連携を図り入居へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ会議などを利用して内部研修をしている。資格に応じた研修会の参加やパート職員も含めた外部研修の参加など、学ぶ機会が確保されている。研修報告がなされ職員の共有も図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の連絡協議会に加入している。管理者や職員は、同業者との交流があり、情報交換や相談連携を気軽に行いながら、質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の面談で、本人の困りごとなど把握に努めている。できる限り自宅訪問をしている。本人のホーム見学を基本とし、雰囲気を見て納得したうえで入居できるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	怒ったり、笑ったり、自分たちの家族という思いで職員は日々支援している。ことわざなどいろいろ教えてもらいながら、互いに支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの入居者と気兼ねなく話せる環境づくりに努めている。表情や発する声のトーンなどで思いを察知して、職員同士情報の共有・連携を図りながら本人本位の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員と話し合い、主治医の意見なども取り入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎の見直しを基本としている。日々の状況把握に努め、毎月現状に即した介護計画であるか点検し、状況の変化に応じて介護計画を修正をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	墓参りや自宅訪問など特別な外出支援や通院支援など、本人、家族の意向や状況に応じて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。入居前からのかかりつけ医を基本としている。医療機関と家族と相談連携を図りながら、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に意向を確認している。本人・家族・職員・医療機関で一番良い方法を状況に応じて話し合い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応に心がけている。日々のケアの中で職員への意識付けも図られている。個人情報の取り扱いについても留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな決まりごとはあるが、本人のペースに合わせ生活リズムも大切に支援を心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好や食べたいものを採り入れた献立である。畑で取れた野菜を食したり・買い物・調理・食事・片付けなど、入居者の状況に応じて、できることを職員と一緒にしながら食事を楽しむ支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調を確認したうえで入浴ができる。入浴が億劫な入居者には、声かけを工夫し、無理強いすることなくゆっくり入浴できるよう心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸や庭掃除・洗濯物たたみ・鶏や魚をさばくなど、生活歴や力量を活かした支援をしている。またテレビの野球や相撲・時代劇鑑賞や買い物・ドライブ・温泉など楽しみごとや気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など日常的な外出や毎月のドライブ、季節毎の行事などの外出支援をしている。入居者の意向や状況に応じ車椅子など利用している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、安全に配慮し入居者を見守りながら、日中は鍵をかけないケアを実践しており、入居者は自由に出入りしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練を昼夜想定で実施している。地域の代表者に声かけし、災害時の協力の依頼をしている。非常食などの準備もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を把握し記録している。定期的に栄養バランスの助言を得ている。個々に応じておかゆやとろみ食など形態を工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	旅館跡を活用しているホームであるため、普通の家と変わらない共用空間である。厨房のテーブルの高さの工夫や階段はリフトを取り付けるなど配慮されている。時節の花々が飾られ季節感も採りいれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳部屋であるが、個々に応じてベッドや寝具、仏壇、テレビなど使い慣れたものや好みのものが持ち込まれており、個性的で各々が落ちついて過ごせる居室である。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。